ほら、よこはまはあったかい
社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会

福祉よこはま

市民活動・ボランティア活動情報誌

2012年
12月14日
No.166

都筑区 勝田団地の集会所で、毎週水曜日に開かれる「サロンひだまり」（11月7日撮影）

特集 高齢者の孤立を防ぐ
地域で見守る つながる 助け合う …2,3,4

目次

福祉の仕事……5
Let's try ボランティア……6
ボラセン情報……7
市社協情報……8
福祉Q&A……9
オススメBOOK……9
リレートーク……9
みんなのきもち ありがとう
寄付者、賛助会員のご紹介…10
みんなの声……11
福よこクイズ……11

「福祉よこはま」は、一部共同募金配分金を活用して発行しています。

「福祉よこはま」は、横浜市が編集に協力しています。

特集

高齢者の孤立を防ぐ

地域で見守る つながる 助け合う

家族やご近所との関係が希薄になっていくなか、高齢者の孤立は地域の大きな課題となり、その防止には“見守り・つながり・助け合い”が急務です。一方で、地域との接点を見いだせない人と、どのように向き合ったらいいのか…横浜市の見守り推進事業と、各地域の取組みを紹介します。

包括支援センターについては9ページ「福祉Q&A」で

横浜市 ひとり暮らし高齢者「地域で見守り」推進事業をとおして

事業内容 75歳以上の一人暮らし高齢者の情報を、区役所から民生委員と**地域包括支援センター**に提供することで支援を必要とする人を把握するとともに、相談支援や地域での見守り活動に生かします。対象者には区の福祉保健センター等から事前に通知をし、訪問することをお知らせしたうえで各地区の民生委員や地域包括支援センター職員等が訪問を行います。平成23年度は松見地区民生委員児童委員協議会をはじめ、9区25地区でモデル事業を実施しました。

いざという時、支援を必要とする人はどこに住んでいるだろう… 誰かに助けてもらえるだろうか…

- そうした情報を地域で把握して、相談支援、地域の見守り活動に生かす
- 民生委員×地域包括支援センター×福祉保健センターが情報を共有し

民生委員が活動しやすい環境をめざす

モデル地区 神奈川区松見地区民児協の取組み 訪問してわかったこと

松見地区民児協会長の山根誠さん

○対象となる世帯のすべての人たちと対面し、状況を把握することができました。日頃の挨拶や声かけ、ふれあい訪問、災害時要援護者対策を通じて築いてきた“支援が必要な人・支援できる人”の関係を深めることができました。

○今後、どのような支援を望むかを聞いてみると“定期的に訪問してほしい”“電話をくれるだけでもうれしい”といった声がありました。

民生委員の森久見子さん

○通院や買い物、ミニデイサービスを利用するなどして不在の方が多く、出来ることは自分で、という意識の方が目立ちました。

○マンション住まいの対象者には回覧板が思うように届かないようです。老老介護のお宅では介護する側に疲労がたまっている印象でした。

○日頃の寂しさを民生委員に訴えるように話し始める人もいました。

見守り活動の充実・継続のために

松見地区民児協会長の山根誠さん

○老人クラブ会員、民生委員経験者や新聞など宅配事業に関わる人たちとの連携を強めたいと思います。

○行政サービスの内容・利用法を勉強して高齢者の相談に具体的に応えることも大事です。

モデル事業の成果・課題を、つぎの活動へつなげるために

平成24年度　横浜市 ひとり暮らし高齢者「地域で見守り」推進事業を横浜市18区・258地区の約8割の地区で実施しています。

お問合せ 横浜市健康福祉局地域支援課
☎045-671-2388

栄区 飯島団地の取組み

団地文化がつなげる人の輪

20年ほど前から高齢化が進み、65歳以上の住民が半数以上となり80代の一人暮らしも珍しくないという飯島団地。ミニデイサービスけやきの会の活動を皮切りに、高齢者が参加しやすい行事を増やして孤立防止に努めてきました。

▲民生委員でもある田中さん(左)と、自治会活動に力を込める中村さん(右)。

いろいろなプログラムを用意して

七夕や健康体操、芋煮会など気軽に参加できる機会をつくってきました。行事によっては小中学生、子育て中の人も参加。飯島団地自治会会長の中村久和さんは「ペタンクなどのスポーツも人気です。やってみたいプログラムがきっとある」と言います。

▲飯島団地自治会センターの一室が定例会の場。

参加をきっかけに住民同士が交流

「花壇の手入れ、落ち葉の清掃などを通じて知り合った高齢者が互いに行き来するようになりました」と話すのは福祉委員会会長の田中佳世子さん。手の動きに脳梗塞の後遺症がみられた高齢者は麻雀の集まりに参加して表情が変わった、とうれしそうです。

▼ラジオ体操が行われる広場で遊んでいた子どもたちと。世代を超えた交流はいざという時、生きてきます。

心強い後押し

郵便受けや洗濯物など変化を察知するポイントを日頃から広報している飯島団地自治会。地域ケアプラザや行政、UR都市機構の協力も高齢者の見守りには欠かせないと田中さんは続けます。定例会で見守りの成果や課題を確認・共有し、次のアイデアに生かします。

都筑区 かちだ連合自治会(市営勝田団地)の取組み

多くの人が見守る習慣を広げる+根付かせる

「階段委員」が毎月、高齢者宅に自治会費の集金を兼ねて訪問し、変化があれば「棟長」に報告して対応を考える…団地の構造を生かし、同じ階段を利用する住民がこの役を担います*。「1年交代でお願いをしています。住民同士で助け合う責任を感じて一生懸命取り組んでくれます」(かちだ連合自治会会長の千葉正敏さん)。サロンや行事などに参加できない高齢者への見守りを、多くの住民の協力で習慣化する一つの方法です。

***こうした仕組みは、飯島団地や上飯田団地(4ページ)でも採り入れられています。**

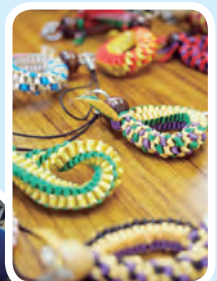
▲活動の写真を手にする民生委員の瀬戸さん、飯田さんと千葉さん(左から)。

▲「外出が苦手な人をどう誘うか」(千葉さん)。

あんしんカードの活用、寸劇で啓発

高齢者の同意のもとに必要事項を記入する緊急連絡先カード、あんしんカードは団地の4自治会の会長が保管し、安否確認や急病時の親族等への連絡に生かします。カードの活用で早期発見した事例を寸劇に仕立てたところ、問合わせや見学がありました。「孤立による不慮の出来事を防止するには、一刻も早く高齢者の変化を見つける努力を重ねるのが早道だと思っています」。(千葉さん)

◀何かと頼りにされる「サロンひだまり」のボランティア河野春光さん。



▶リボンストラップなどを「サロンひだまり」で作って過ごす参加者。

毎日の見守りが、いのちを救った

泉区 市営上飯田団地第10自治会会長　齋藤温三（はるみ）さん

団地に住む多くの人に見守り活動を知ってもらえたらありがたいです。

齋藤さんは団地の高齢者見守り委員のひとり。ある朝、団地の一室で一人暮らしの高齢者が倒れているのを発見しました。干したままの洗濯物、たまった新聞に目が行きドアをたたき、「どうしました」「動けないんです」。119番に連絡、救急車が駆けつけて…*。

*この行動に対して泉消防署長から感謝状が贈られました

いろいろ試した末の「見守り散歩」

若い住人が増えてきた上飯田団地ですが、第10自治会は約150世帯のうち65歳以上・ひとり暮らしは35人。団地全体の高齢化率は50%になろうとしています。高齢者見守り委員としてしっかり役目を果たそうと考えた齋藤さん。いろいろ試した末にたどりついたのが毎朝の見守り散歩です。見守りセンサー設置や電話での安否確認よりも日々“人が人を見守る”ほうが確実と判断したのです。担当する30世帯近くを歩いて回ると一時間はかかりますが「健康にいいし、団地内の知り合いが増えました」。

姿を見かけたらあいさつをして

道で高齢者の姿を見かけると、齋藤さんは積極的に声をかけます。買い物や通院など外出の目的がわかれば安心できます。数日、姿を見ない人を訪ねたら応答がない、もしや…「その人、旅行に出かけていました。ほっとしました」とエピソードを話す齋藤さん。見守り委員になって4年。大事に至る前に人を救えれば何よりです、と目を細めていました。

3日以上不在にする場合は、団地の階段ごとにいる班長に知らせてください、と協力をお願いしています。

若い住人にもこの活動を知ってもらい、十分な見守り体制が広がることを期待します。

チェックポイントは“ポスト・カーテン・洗濯物”

齋藤さんは見回りの際、つぎのことをチェックします。

- ☑ **郵便受けに新聞、チラシ、郵便物がたまっていないか**
- ☑ **カーテンを開けた様子はあるか**
- ☑ **出したままの洗濯物…雨の日は重点的に**

ひとつでも当てはまればベルを鳴らし、ドアをノックし、大きな声で呼びかけます。隣の住人にも確認をし、民生委員や地域ケアプラザの担当者に連絡をします。安否が不明な時は警察に立ち会ってもらい、室内に勝手に入ることはしません。

「福祉よこはま」に広告を載せませんか

福祉情報紙「福祉よこはま」の広告企画をご案内いたします。法人・施設の活動広報や企業の宣伝活動にご活用ください。

発行部数　各号45,000部

配布先　自治会町内会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、市内福祉関係施設・団体、小・中学校、高等学校、大学、福祉専門学校、横浜銀行・横浜信用金庫・駅PRボックス等（いずれも横浜市内）

版下　版下支給・完全データ入稿にてお願い申しあげます。
（使用ソフト：アドビイラストレーター等）
＊原稿から作成される場合は別途制作費用が必要となります。

料金　（税込価格）
会員・賛助会員は別料金設定

サイズ	一般料金
A 4判（裏表紙）	¥200,000
A 4判（中面）	¥150,000
A 4判1/2（128×180）	¥120,000
A 4判1/4（63×180）	¥50,000

お問合せ・お申し込み　横浜市社会福祉協議会　総務部　企画・IT等担当
☎045-201-2090　FAX:045-201-8385　Eメール:fukuyoko@yokohamashakyo.jp

シリーズ⑮

福祉の仕事 〈〈〈〈 保健師 〉〉〉〉

保健師 とは？

保健師の仕事は、地域や組織の中で健康管理や健康増進に寄与する非常に責任の重い仕事です。地域活動や健康教育・保健指導などを通じて、病気の予防や健康増進などの公衆衛生活動を行うとともに、赤ちゃんからお年寄りまでのあらゆる年齢層の相談に対し、適切なアドバイスを行っています。

青葉福祉保健センター・
こども家庭支援課の保健師

伊丹紀恵（のりえ）さん に聞きました

●保健師をめざしたきっかけは

看護師実習で耳にした、ある患者の「予防をしていれば病気にならなかった」というつぶやきから、保健師になれば一人ひとりの予防につながる仕事ができる、と思いました。

▲伊丹さんが関わる地域育児教室（市営鴨志田住宅集会所・11月14日）で

●具体的な例では

現在の業務でいえば、乳幼児健診でお母さんと接し、お子さんの発達などの相談を受けいろいろな支援につなげています。

●仕事に手ごたえを感じるのは

子育て支援を形にしていく、その過程や効果を多くの人と関わりながら実感、共有できる時です。私の場合は職場環境に恵まれていて、目標としたい先輩保健師の仕事を目の当たりにできることです。

伊丹さんのある一日

8:30～	青葉区役所に出勤
午前	・新生児（第一子）と母親を訪問
	・育児教室などの会場で相談にあたる
	・両親教室での講話
午後	・乳幼児健診（問診など） 健診業務がない時は子育て中の家庭を訪問
夕方	・訪問業務などから戻って事務作業

▶同期入庁の仲間と会う時は、仕事の情報交換が多くなります。

横浜市鴨志田地域ケアプラザ・
地域包括支援センターの保健師

星 理（おさむ）さん に聞きました

●仕事の内容は

福祉保健に関するさまざまな相談を受けています。ご本人やその家族からの介護保険に関する相談が多いです。また、介護予防講座や介護者の集いを実施し、地域保健の啓発も行っています。

●施設内での仕事が中心ですか

介護保険の対象になった方のお宅を訪問することも多いですね。ケアプラザにいる専門職（主任ケアマネジャー、社会福祉士）と連携して、一人ひとりにあった支援を考えます。

●保健師の存在をもっと知ってほしいのでは

福祉保健のいろいろな場面で保健師は活躍していますが「困った時に相談に乗ってくれたあの人が保健師だった」といった認識でもいいのでは。肩書（資格）を得ても、初めのうちは何をどう進めたらいいのか分かりません。経験を積んで、人の役に立てればいいと思います。

▲やわらかな人当たりはケアプラザの利用者に評判がいい、と職場の仲間は言います。

星さんのある一日

8:30～	鴨志田地域ケアプラザに出勤
午前	地域包括支援センターに相談に訪れた人の家庭訪問 要介護認定で要支援1・2と判定された人の家庭訪問 区の福祉保健センターなど担当部署との連絡・調整
午後	午前中の訪問先からいったん戻り、再び別の訪問先へ向かう 地域包括支援センターでの相談業務
17:00～	事務作業など

▼看護師をしていた時期もある星さん。

横浜市内の福祉人材に関する求人情報

ウェルじゃん求人情報　http://www.yokohamashakyo.jp/willing/weljan/weljan-kyujin.html
横浜市介護人材求人情報システム　http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/zinzaikakuho

Let's try ボランティア

ボランティアはやってみたいけれど、実際にはどんなことをするの？できるの？　そんなギモンにこたえるLet's try ボランティア。今回は、福祉施設の利用者などを訪問し相手の話により深く耳を傾ける「傾聴」活動に取り組む、傾聴ボランティア・モモ（泉区）のみなさんを訪ねました。

▲代表の萩原 明美さん

傾聴の特徴とは

相手の話をひたすら聴き、相手を受け入れ、相手の心に寄り添う点でしょうか。大切なことは、同情したり、肯定や否定をしたりすることでなく、共感すること（佐藤さん）。

相手が心を開いてくれないと成り立たない…

養成講座で傾聴の基本を学び、月例会でも研修を重ねています。初対面で相手に対する尊敬の念を誠実に伝えることで“話す・聴く”の関係が始まります。（三島さん）。

「相手（訪問先の入所・通所者）を心から受け入れなさい」というのがモモのモットーです（萩原さん）。

言葉が不自由な人の場合は

筆談で行うこともあれば、手足の動きを交えて気持ちを伝えようとする人もいます。話を聴いてほしい人はみな、その過程で自ら答えを導き出します。その瞬間をじっくりと待つのも傾聴の役割です（萩原さん）。

▲副代表の三島 教子さん

どんな人が傾聴ボランティアを始めるのでしょう

親の介護を経験し、看取ったことをきっかけに始める人もいます（三島さん）。

男性の場合、特技はないが話を聴くことならできるかも、という動機で…。私がそうでした（佐藤さん）。

▲顧問の佐藤 武さん

傾聴が必要とされる理由は

東日本大震災では、避難所から仮設住宅に移ったのち孤立する人が多くいました。その予防の一つとして傾聴が注目されました。話し相手がいれば楽しかったあの頃の自分に戻ることができる。苦しかったことを忘れられる。傾聴はタイムマシーンでもあります（萩原さん）。

◀会員同士がお互いに尊敬しあい傾聴にとりくむ点がモモのいいところ。（泉区社会福祉協議会団体交流スペースで）

▶泉区内の高齢者福祉施設や各施設で話し相手を必要とする方のニーズが区社協に集まります。そこから傾聴ボラの派遣の依頼を受けます。

傾聴ボランティア・モモ

平成19年6月、泉区社会福祉協議会・泉区ボランティアセンターとの共催で1回目の傾聴ボランティア養成講座を開催し、会員養成と傾聴訪問を本格的に始めた。現在、会員数は62名、泉区内の高齢者福祉施設、障害者福祉施設など16か所で活動している。月例会は毎月第一金曜日午前に中川地区センターで。次回の養成講座は平成25年6～7月に実施予定。

お問合せ　泉区社会福祉協議会　☎045-802-2150

障がい児者避難所体験　～誰にもやさしい避難所生活のために～

横浜市西区社会福祉協議会・障害福祉関係分科会が主催となり、今年で4回目の「障がい児者避難所体験」が11月17日（土）9時30分から11時30分まで岡野中学校で開催されました。

この事業は、参加された地域の方々と、障害特性について理解し、障害児者自身の発信力を高め、日常での顔見知りの関係を築くことを目的としています。

参加者数 120名　内訳 一般の方89名 支援が必要な方31名

＊参加者は、6グループ（聴覚障害・重心障害・精神障害・知的障害・肢体障害・視覚障害）に分かれ、説明・体験・意見交換が行われました。

1 避難所の受付体験

避難者を把握するための「避難者カード」を記入。また「支援の必要のある方」の確認も行う。

2 「障がいについて」説明とスペース体験

グループごとの障害児者やその保護者等がナビゲーター（説明者）となり、障害特性や日常生活についての説明を受ける。避難所内では、障害特性に配慮して、限られたスペース（1畳）を工夫する取組みを行う。

3 グループでの意見交換（ワークショップ）

グループごとに、避難所で障害児者とともに過ごすためのアイデアを考え、障害児者を交えた意見交換を行う。

グループから発表内容

►►自分のスペースが分かる目印や必要な情報が届く掲示方法など、障害の特性に合わせた工夫が必要。

►►障害の有無や特性は見た目では分かりにくい。その場で判断するのは難しく、あらかじめ顔見知りになり、その方の特徴を知っておく必要がある。

►►支援が必要な方を分かってくれる人が避難所にいることが大切。また、そうした人達をまとめるリーダーの存在も必要である。

災害ボランティアに関するＷｅｂサイトの紹介

東日本大震災から、1年9カ月が経過しました。東北の復興のために私たちができることは何か・・・いま一度考えていただく際に参考になるウェブサイト（インターネット）を紹介します。

全社協　被災地支援・災害ボランティア　http://www.saigaivc.com/

▶東北の災害ボランティアセンターのボランティア募集状況やボランティア活動者数推移等が確認できます。

かながわ東日本大震災　ボランティアステーション　http://ksvn.jp/

▶定期的なボランティアバスの運行情報や、県内でのボランティア活動の情報が掲載されています。また、復興支援に関する県内をはじめとした様々なイベントの情報が確認できます。

助けあいジャパン　http://tasukeaijapan.jp/

▶復興庁連携プロジェクトとして、ボランティア情報以外にも義援金や物資の提供等の情報が確認できます。

横浜災害ボランティアネットワーク会議　http://www.yokohama-saigai-vol-net.jp/

▶横浜での災害時に備えて平常時からのボランティア団体間の相互交流をはかっていくことを目的とし、災害ボランティアに関するシミュレーションや研修会等を開催している団体です。

ボラちゃんが行く！ サンタボランティアの巻

イラスト：和泉直子

第4次 横浜市地域福祉活動計画「私たちにできること」の募集

横浜市社協で作成している第4次横浜市地域福祉活動計画では、計画項目ごとに市社協・区社協の役割、地域活動団体・施設等に期待する役割を記載しています。

そして、計画書をお読みいただいた市民一人ひとりが、自分にできる地域活動を考えて冊子に記入できるように、「私たちにできること」の欄を設けています。

23年度に応募いただいた「私たちにできること」の一部を紹介します。

地域内の交流を目的として、手作りのお菓子やお弁当を用意し、高齢者・虚弱な方・障害のある方など、どなたでも交流できる場をつくりました。

子どもたちの居場所作りに取り組んでいます。

「認知症サポーター養成講座」で、一人でも多く、認知症の正しい知識を知っていただくために努力しています。

高齢者施設へ訪問し、アロマハンドトリートメントのボランティアを行っています。

たくさんのご応募ありがとうございました。

24年度の募集も受け付けています

【募集内容】個人や所属のグループ・学校・企業などで最近新たに始めた（始める予定の）福祉活動とそのきっかけ
【応募資格】横浜市内　在住・在学・在勤の方
【応募締切】平成25年2月28日（木）必着
【応募方法】氏名・住所・電話番号を明記の上、FAX、Eメール、はがきにて
【応 募 先】横浜市社会福祉協議会　総務部　〒231-8482　横浜市中区桜木町1−1　横浜市健康福祉総合センター
FAX:045−201-8385　Eメール:kikaku@yokohamashakyo.jp

抽選で50名様にオリジナルグッズを贈呈します。　詳しくは　横浜市社協　わたしたちにできること募集　検索

第４次横浜市地域福祉活動計画リーディング事業 町内会・自治会単位の「見守り・たすけあい活動モデル事業」

二ツ橋中部自治会の取り組みから

東日本大震災以降、地域や近隣住民との日常的なつながりが見つめ直されています。

横浜市社会福祉協議会では、日常的なつながりを「町内会・自治会」といった身近な地域の中で再構築することを目的とした「見守り・たすけあい活動モデル事業」を平成22年度から4ケ年事業として取り組んでいます。

現在、モデル事業に取り組んでいる5地域の中から、瀬谷区にある二ツ橋中部自治会の活動を紹介します。

瀬谷区では、「気づきのキャッチ・見守りリレー事業」という地区社会福祉協議会等が中心となって行う「見守り」体制づくりを平成20年度から進めています。

二ツ橋中部自治会では、この取り組みの『住民一人ひとりの「気づき」』に力を入れるため、町内会・自治会単位の「見守り・たすけあい活動モデル事業」に手をあげました。

モデル期間終了時までの目標は、昔ながらの近所づきあい（向こう三軒両隣のつきあい）の良さを取り戻すことで、高齢者をはじめとした見守りを必要とする地域住民を自治会・班・隣近所という生活に身近な単位で見守り・支えあえる体制づくりです。

事業開始から約1年が経過した現在、「見守り・支えあい活動」を地域全体に広げるため、運営委員メンバーが地域で開かれているサロンや体操教室などを利用して取り組み内容について直接、参加者に説明を行うほか、チラシの回覧や掲示等で周知を行っています。

今年5月には地域住民の現状把握のため、全世帯を対象としたアンケート調査を実施しました（回収率は89%）。集計結果から65歳以上の高齢者が約20%、そのうち11%の人が単身生活であり、日中独居になる高齢者も22%いることがわかりました。この結果を分析し、地域の課題を把握することで、住民が求める「見守り活動」につなげていく予定です。

今後は、自治会のブロック単位ごとでの説明会を予定しており、地域全体で見守り活動が推進されるよう、地域の土台作りに取り組んでいきます。

先行して取り組んでいる西富岡町内会での視察の様子。中部自治会としての取組みのヒントを得ました。

二ツ橋中部自治会では、三好会長をはじめとした自治会役員と民生委員を中心に、瀬谷区社会福祉協議会、二ツ橋第二地域ケアプラザ、二ツ橋地域ケアプラザとの協力により事業が進められています。

福祉Q&A

Q 「傾　聴」って なんですか?

A 「傾聴」とは、コミュニケーション技術の一つです。人の話をただ聞くのではなく、注意を払って、より深く、丁寧に耳を傾けること。自分の聞きたいことを聞くのではなく、相手が話したいこと、伝えたいことを、受容的・共感的な態度で真摯に“聴く”行為や技法を指します。

Q 「地域包括支援センター」って なんですか?

A 「地域包括支援センター」とは、介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関です。センターには、保健師または看護師、主任ケアマネジャー、社会福祉士が置かれ、専門性を生かして相互連携しながら業務にあたります。

横浜市では、地域ケアプラザなどに設置されています。

オススメ BOOK

シュープレス／著
小学館／発行
1,260円(税込)／定価

『ともしび』

宮城・仙台で被災した小さな編集プロダクションが、実際に見たことや体験したこと、そして東北の地方紙の中から、ずっと語り継いでいきたい勇気・希望・心・命のはなしを厳選し、紡いだ一冊。

家族に”避難しろ”と伝えられなかった消防士／避難所の小学生が作る、いいことしか掲載しない”ファイト新聞”／ ”計算していては商品提供に時間がかかりすぎる”店長の独断で、商品を無償提供した西友汐見台店・・・その後、一時閉店を告げた張り紙には”ご恩は一生忘れない”など感謝の言葉で埋まっていた。

いろいろな人がいて、いろいろな体験があって、いろいろな活動が今につながっている。いま一度振り返り、これからもずっと語り継いでいきたいはなしがあります。

リレートーク

福祉って
ここがおもしろい
ここがむずかしい

“地域のお茶の間”でつながりを

「横浜市は間もなく高齢化率が7%を超える高齢化社会に入ろうとしているが、何か手だてをしなければいけないのでは?」と、入職間もない頃、電話口である市民の方から問いかけられました。あれから28年。高齢化率は加速的に増加し、20.4%(平成24年1月現在)の高齢社会となり、21%超の超高齢社会も目前に迫ってきています。区ごとに見れば、都筑区の13.8%から最高位の栄区の25.1%とバラつきはありますが、予測はされていたものの、驚異的な数字と言えるでしょう。

高齢者がますます長寿になるにつれ、一人暮らしの方も増加し、家庭からは”お茶の間”がどんどん失われています。誰とも会話する機会がない、近所づきあいがない、困ったときに頼る人がいない現状に、地域社会との繋がりを実感できていない人は少なくありません。

プライバシーを重視するライフスタイルの増加。日常生活の匿名性と引き換えに、隣近所の様子もよく分からない。そんな地域社会に生きてきた多くの人々も、昨年の東日本大震災に直面し、いざというときの備えとして日頃からの地域や人々の繋がりの大切さを心に刻みつけたことでしょう。

今月号で特集されたように、高齢者の社会的孤立を防ぐために、さまざまな見守りや居場所づくりが見直しをされ広がりを見せています。この28年間に、何ができて何ができなかったのかをしっかり振り返るとともに、社協組織を支えていただいている多くの会員の皆さまとともに、より一層のパートナーシップを築いていかなければなりません。

そして、皆さんも老若男女を問わず、家庭の”お茶の間”をとび出して、”地域のお茶の間”も、ちょっと覗いてみませんか。

横浜市栄区社会福祉協議会
事務局長　田中 文子

みんなのきもち ありがとう

みなさまから寄せられたご寄付は、
市内の市民活動団体、障害児・者団体の支援のため、
有効に活用させていただきます。

こんな活動に役立てられています！

よこはま ふれあい助成金<※団体自立支援区分>

特定非営利活動法人
ふらっとステーション・ドリーム

※団体自立支援区分とは活動場所の賃料やコーディネーター人件費に助成を行う。(平成24年度で終了)

誰もが“ふらっと”立ち寄れる地域の憩いの場

「必要な仕組みは住民で力を合わせて作り出すもの」そう語ってくれたのは特定非営利活動法人ふらっとステーション・ドリーム（以下、「ふらっと」）理事長の泉さん。

地域の高齢化や居場所の確保が課題となり、誰もが立ち寄れる場を作るため住民が動き「ふらっと」の運営へとつながりました。地域の憩いの場として毎日オープンし、ボランティアスタッフの手作りランチは好評で毎日通ってくる方も…。サロンや各種講座をひらく学びの場、情報提供や相談を受ける場としてさまざまな顔があります。ただ少し話がしたい…その気持ちを温かく包み込んでくれる「ふらっと」に足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

寄付者の方へメッセージ

よこはま ふれあい助成金は、
持続的な活動の安定運営にとても助かります。
みなさまに深く感謝申し上げます。

理事長の泉さん（左端）とボランティアのみなさん

特定非営利活動法人 ふらっとステーション・ドリーム
横浜市戸塚区深谷町1411-5
☎・FAX：045-307-3558
URL：http://www16.ocn.ne.jp/~furatto/

寄付者のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。順不同・敬称略
平成24年7月1日～平成24年9月30日

よこはま あいあい基金寄付者
- コーヒーの大学院 ルミエール・ド・パリ（3件）
- NPO健康麻雀の会
- 日本國風流詩吟吟舞会 神奈川県地区本部

障害者年記念基金寄付者
- ふれあいチャリティーバザー実行委員会（2件）
- 匿名（3件）

善意銀行　金銭寄付者
- 松栄輸送 株式会社
- 清野 賢一
- 土志田建設 株式会社
- 吟楽会

善意銀行　物品寄付者
- 特定非営利活動法人 サン・ワールド・ビジョン 理事長 山野 義夫
- 松栄輸送 株式会社
- 横浜貨物綜合 株式会社
- 南関東日立物流サービスまごころ基金
- 社団法人 神奈川県空調衛生工業会
- 日本音楽文化交流協会 代表 及川 光悦

福祉基金寄付者
- 株式会社 アズパートナーズ

賛助会員のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。順不同・敬称略
平成２４年８月1日～平成２４年１０月３１日新規受付分・継続受付分

団体会員
- 有限会社 アーバンハウス

個人会員
- 島口 智
- 下山 千雪
- 中丸 良久
- 宮坂 洋子
- 芝 良弘
- 加藤 仁美
- 尾崎 琇三
- 佐藤 孝康
- 畑中 保王
- 齋藤 敏雄
- 石丸 清美
- 蜷川 淑子
- 内海 利行
- 伊藤 佐伎子
- 齋藤 史郎
- 加藤 年子
- 笠井 通子
- 太田 孝
- 杉本 さと
- 河野 勉
- 平間 チヨミ
- 星崎 清美

賛助会員になっていただけませんか

賛助会員は、横浜市社会福祉協議会の行う様々な地域福祉推進の“サポーター”として会費による支援を行っていただいています。会員はいつでも、どなたでもなることができます。
【年会費】（個人）一口 2,000円　（団体）一口 10,000円
【お問合せ】横浜市社会福祉協議会　総務部
☎045-201-2096　FAX:045-201-8385
みなさまのご協力をお待ちしています。

みんなの声

前号の感想

障害者スポーツは思った以上にハードでその激しさに驚きます。リハビリから始めたスポーツがやがて好きになってその魅力のとりこになってしまう。大いに楽しんで下さい。
（戸塚区 鈴木 孝雄さん）

わたしは大学時代、福祉の科目を履修していたことがあり、そのとき「ボッチャ」というスポーツを知りました。健常者である者でも楽しめるスポーツであると思います。紙面にてボッチャをされている方の様子を見て、わたしも久しぶりに仲間と楽しみたいという気持ちになりました。これから、大人も子ども気軽にできるという「ボッチャ」の魅力が多くの人に理解されるとよいなと思います。
（金沢区 相原 絵里子さん）

社交ダンスクラブ野ばらのみなさんの笑顔が素敵ですね。
（港北区 廣澤 マリさん）

特集スポーツのちからロンドンパラリンピックの年でもあり、興味深く拝読しました。
（栄区 指原 武さん）

この間テレビで映画『最強のふたり』を紹介しているのを見て、見に行きたいなと思っていました。
福祉よこはまでもオススメされているのでやっぱり見に行こうと思います。
（磯子区 山田 響子さん）

なかなか読む機会がありませんが、すごく勉強になります。皆さんの顔がいきいきしていました。
（戸塚区 田口 双葉さん）

音声版で聞くことができるのも、音声訳ボランティア「やまびこ」の協力があるからだと思う。日々の活動に感謝したい。
（T.N.さん）

福よこクイズ

たくさんのご応募、お待ちしています！

Q1 特集：齋藤さんの「見守り散歩」でのチェックポイントは“ポスト・〇〇〇〇・洗濯物”
（カタカナ４文字）

Q2 Let's try ボランティア:ミヒャエル・エンデの作品に登場する不思議な少女に由来する、傾聴ボランティアのグループ名は“傾聴ボランティア・〇〇”（カタカナ2文字）

Q3 市社協情報：最近始めた（始める予定の）福祉活動とそのきっかけを募集。第４次 横浜市地域福祉活動計画「私たちに〇〇〇〇〇」（ひらがな５文字）

前号165号の福よこクイズの答えは、Q1 ラグビー　Q2 マラソン　Q3 ワン　でした。多くの方にご応募いただき、どうもありがとうございました。

応募方法

はがき・FAXまたはEメールに、Q1～Q3のクイズの答え・郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・年齢・電話番号・「福祉よこはま」の入手法と「福祉よこはま」への感想・意見等（みんなの声に掲載する場合があります）をお書きの上、下記までお送りください。抽選で30名の方にプレゼントを差し上げます。ご応募お待ちしています！

締め切り：平成25年2月15日（金）消印（はがき）・到着（FAX・Eメール）有効

・クイズの答え Q1～Q3
・郵便番号・住所
・氏名（ふりがな）・年齢
・電話番号
・「福祉よこはま」の入手法と
・「福祉よこはま」への感想・意見等

〒231−8482　横浜市中区桜木町1−1
横浜市社会福祉協議会「福よこクイズ」係
FAX：045-201-8385
Eメール：fukuyoko@yokohamashakyo.jp

福よこクイズがQRコードで便利に応募できます。

QRコードとは?

バーコードリーダーの機能を搭載している携帯電話で、このバーコードを撮影すると、簡単にウェブサイトにアクセスしたり、アドレスを登録できる機能です。

読み取り方

バーコードの利用法は、ご利用の機種によって異なりますが、おおむね以下のとおりです。

①バーコードに対応しているカメラ付き携帯電話で、バーコードリーダーを起動し、バーコードを撮影します。
※バーコードリーダーの起動方法は携帯電話の機種によって異なります。詳しくは、ご利用の携帯電話の取扱説明書をご確認ください。

②バーコードに含まれている情報（ウェブサイトのアドレスなど）が表示されるので、画面の指示に従います。

③メール作成の画面から必要事項を記入して送信してください。

QRコード

※応募に関わる個人情報については、当選者への発送及び福祉よこはま紙面作成の参考にのみ利用させていただきます。

編集後記

● 特集で紹介しました“孤立”は高齢者だけの問題ではなく、子どもの学校での孤立や子育てをする父母の社会的孤立、行き過ぎた成果主義による会社内での孤立などがあります。各世代でのつながり“縁”をあらためて見つめなおす時だと思いました。　樋口宗典

福祉よこはま
No.166
2012年12月14日
次号 No.167 2013年3月 発行予定

発　行：社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1
☎045-201-2090 FAX:045-201-8385
Eメール：fukuyoko@yokohamashakyo.jp
URL：http://www.yokohamashakyo.jp
デザイン：(株)オールスタッフ

広告

全国200万人加入!!

http://www.fukushihoken.co.jp
ふくしの保険 検索

ボランティア活動保険

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

Aプランで
死亡1,400万円
入院7,000円、通院4,100円
賠償責任5億円(限度額)
を補償

活動場所と自宅との往復途上の事故も補償

ボランティア活動のための学習会・会議などでの事故も補償

ボランティア自身の食中毒・熱中症・特定感染症もOK

年間保険料	基本タイプ	天災タイプ
Aプラン	280円	490円
Bプラン	420円	720円

◇天災タイプは基本タイプ+地震・噴火・津波を補償

＊各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しておりますので、最寄りの社協にお問い合わせください。

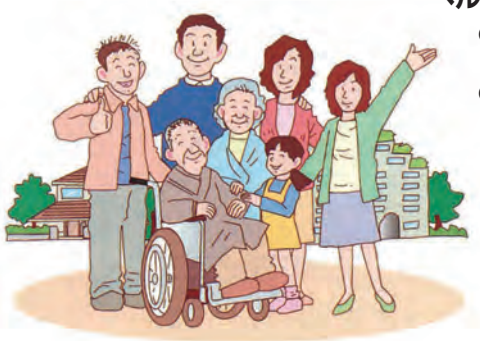
ボランティア行事用保険

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

● 行事参加者(主催者〔個人〕を含みます。)全員のケガを補償(往復途上も含みます。) ● 行事主催者の損害賠償責任も補償

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!



● 在宅福祉サービス
(公的介護保険対象外サービスを含みます。)
● 地域福祉サービス
● 障害福祉サービス
● 児童福祉サービス
● 障害者地域生活支援事業　など

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

● 送迎・移送サービス利用者を特定したプラン
● 送迎・移送サービスのための自動車を特定したプラン

お申込み、お問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル 17F
TEL:03(3581)4667　FAX:03(3581)4763

〈引受幹事保険会社〉日本興亜損害保険株式会社
TEL:03(3231)7545